

発 言 通 告 書 要 旨 (1 枚目 / 全 4 枚)

氏 名 上田 朋和

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)		屋内プール整備事業について 総事業費の減額について 令和6年度12月補正予算から令和7年度当初予算において総事業費が5億5,470万円減少した理由について問う。 また、減額となったことにより、当初予定していた施設に変更は生じないのか。	
	(2)		ランニングコストと自主財源の確保について 令和8年度のオープンに向けて工事に着工するとのことだが、オープンに向けランニングコストを試算すべきであると考ええる。現状ではどのように捉えているのか。 また、安定した運営には自主財源の確保が重要だと考える。その方策としてネーミングライツなどを利用することも必要だと考えるが、所見を問う。	
	(3)		指定管理者の募集について 令和8年度オープンとなると、新しい施設のため、運営に当たっては様々な準備が必要となってくる。特により良い指定管理者を選定することが重要となる。指定管理者の選定におけるスケジュールや方針を示せ。	
	(4)		今後の大規模修繕等に向けて 加賀市内のスポーツ施設は、これまで定期点検や軽微な修繕で済むところを後回しにしたり、計画的な施設修繕をしてこなかったため、大規模修繕をしなければならない時期が同時にやってきた。 そのため、新しいプールにおいては修繕計画を策定したり、大規模修繕などの費用を捻出するためにも基金を創設するなどの対策が必要であると考えるが、所見を問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全4枚)

氏 名 上田 朋和

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
2	(1)		北陸新幹線開業後における都市圏への誘客について 関西圏・中京圏へのプロモーションについて 北陸新幹線加賀温泉駅開業後の4月～12月における観光入込客数は、3大都市圏については昨対比全てプラスになっている。しかしながら関西圏・中京圏は関東圏と比べるとアクセスで乗り換えが発生することや料金が上がったこと等で利便性が低下したこともあり、昨対比2～3%と伸び率が低い。 そこで次の3点について見解を問う。 ①乗り換えによる不便さを補うためのプロモーション施策はどのように考えているのか。 ②車やバスでの来訪者に向けたプロモーションについて、市の取り組みを問う。 ③中京圏・関西圏それぞれに適したプロモーション手法（例えば、鉄道やバスの二次交通との連携強化や、ドライブ旅行向けの観光パッケージの造成）をどのように考えているのか。	
	(2)		加賀温泉郷の魅力向上について 若年層やファミリー層、インバウンド観光客へのアピールが重要だと考える。特に今まで多く来ていただいていた関西圏・中京圏からのお客を誘客するうえで、「あえて加賀市を選ぶ理由」を明確にする必要がある。 そこで次の2点について問う。 ①若年層やファミリー層に向けた、新たな温泉地の魅力創出の施策はこれまでどのような取り組みをしてきたのか。 ②滞在時間をより充実させる体験型観光の推進について、市のこれまでの取り組みと今後の方針を問う。	
	(3)		温泉地以外のPR強化について 加賀市には温泉以外にも、大聖寺や橋立など歴史・文化の魅力、さらには食や自然体験など多様な観光資源がある。特に、中京圏からは車での来訪も多く、移動範囲の広さから温泉だけではなく、これらの地域の歴史・文化を活かした観光コンテンツを充実させることが求められる。 そこで次の2点について問う。 ①大聖寺や橋立の歴史・文化資源の観光活用について、現状の市の具体的な取り組みを問う。例えば、大聖寺藩の城下町としての魅力や町家文化の活用など、地域の歴史的背景を観光資源として発信力を高める必要があるが、市として今までどのような取り組みをしてきたのか。 ②歴史・文化資源と温泉との相乗効果を高める観光戦略について、市の考えを問う。例えば、大聖寺や橋立の歴史・文化を学ぶウォーキングツアーや、温泉と組み合わせた滞在型観光プログラムの造成など、市としてどのように取り組んでいくのか。	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全4枚)

氏 名 上田 朋和

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
	(4)		ツーリズムＥＸＰＯジャパン 2025 愛知・中部北陸への出展について ツーリズムＥＸＰＯジャパン 2025 は、日本最大級の観光イベントであり、加賀市にとって大きなＰＲの機会となる。 ツーリズムＥＸＰＯジャパン 2025 への出展に向けた、市の具体的な計画はあるのか。	
3	(1)		ＴＨＵ開催事業について 前回加賀市で開催した際の結果について 参加した国内外のクリエイターの数や国籍、全体の来場者数などの具体的なデータを示せ。	
	(2)		地域経済・文化への効果について クリエイター同士の交流を通じた新たなビジネスやコラボレーションの創出事例はあったか。 また、地元の伝統工芸や文化とクリエイティブ産業との連携による新たな取り組みについては、令和５年３月定例会での答弁では、「ＴＨＵ主催者の方々はこれまで数回にわたり本市を訪れ、山中漆器の木地挽き体験や本市の特産品であるブロッコリーの収穫体験などを行っており、九谷焼や山中漆器などの伝統産業や食文化に非常に高い関心を示しておられます。このようなことから、伝統工芸などを体験するイベントやオプショナルツアーの実施も検討されておられます。」とあった。地域経済・文化への効果を市としてどのように捉えているのか。	
	(3)		今回の開催方針について 前回の成果や課題を踏まえ、今回の開催に向けた改善点や取り組むべき課題は何か。ＴＨＵの開催を契機に、加賀市がクリエイティブ産業の拠点としての地位を確立していくための施策や、今後の方針を問う。 さらに、市民や地域の若者がグローバルなクリエイティブ産業に触れる機会をすることで、教育的・文化的な効果があげられると考えるが、所見を問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 (4枚目／全4枚)

氏 名 上田 朋和

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
4			大聖寺実業高校生からの提案について レンタル自転車や電動キックボードの導入を提案する。 大聖寺高校や大聖寺実業高校から少し距離があるコンビニやスーパー等まで楽に行けるほか、観光客なども利用できるようにすればよいと考える。 電動キックボードはスペースをとらないというメリットがあり、自転車に関しては、高校3年生が卒業する際に使わなくなる自転車を譲り受けることにより、大聖寺駅での放置自転車も減少し、エコにもなると思う。 管理に関しては、民間企業と市が共同で管理する方法と、民間企業単独で管理する方法を検討したうえで、取り組みを実施していければよいと考えるが、所見を問う。	